

## 野菜飲料を製造する富士見工場、ソースを製造する上野工場 使用電力を全て再生可能エネルギー由来に ～SBTの達成を目指し、2023年1月より導入～

カゴメ株式会社(代表取締役社長:山口聡、本社:愛知県名古屋市、以下カゴメ)は、「カゴメトマトジュース」や「野菜生活100」等を生産する当社富士見工場(長野県諏訪郡)で使用する電力を、2023年1月1日より実質再生可能エネルギー電源に由来する電力に切り替えます。(※1)これにより富士見工場の使用電力(年間7,748MWh)は自家消費型の太陽光発電と組み合わせる事ですべて再生可能エネルギー由来となり、同工場の二酸化炭素排出量を年間約3,000トン(当工場排出量の53%※2)削減できる見込みです。

また、「醸熟ソース」等を生産する上野工場(愛知県東海市)においても、使用する電力(年間1,209MWh)を2023年1月1日より実質再生可能エネルギー電源に由来する電力にすべて切り替えます。これにより同工場の二酸化炭素排出量を年間約500トン(当工場排出量の40%※2)削減できる見込みです。

なお、本取組により、使用する電力を再生可能エネルギー電源に由来する電力に切り替えた当社の工場は、「トマトケチャップ」を生産する小坂井工場(愛知県豊橋市)を含めて、合計3工場となります。



野菜飲料を製造する富士見工場



太陽光パネルが設置された富士見工場の様子

自然の恵みを活かした事業を展開する当社にとって、持続可能な地球環境は解決すべき重要な社会課題です。そのため、当社では様々な地球環境の保全に取り組んでおりますが、とりわけ気候変動への対応は優先度の高い課題として認識しております。

気候変動リスクを緩和する為、2050年までに当社グループの温室効果ガス排出量を実質ゼロにすることを目指し、2030年に向けた温室効果ガス排出量の削減目標を策定(※3)、SBT(Science Based Targets)イニシアチブ(※4)の認証を取得しております。本件はその目標に向けた取り組みの一環となります。

※1 発電時に CO<sub>2</sub>を排出しない再生可能エネルギー電源由来の CO<sub>2</sub>フリー電力

※2 2022年を基準とした割合。

※3 「カゴメグループの温室効果ガス排出量の削減目標」

Scope1,2 2030 年度までに 2020 年度の温室効果ガスの排出量を 42%削減(1.5°C目標)

Scope3 2030 年度までに 2020 年度の温室効果ガスの排出量を 13%削減

※4 企業の温室効果ガス排出削減目標が、パリ協定が定める水準と整合していることを認定する国際的イニシアチブ

#### 当社の CO<sub>2</sub>削減の近年の取り組み(一部)

2019 年	「気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)」の提言に従い、気候変動シナリオ分析を試行。
2020 年	野菜飲料の製造工場(長野県富士見町)から排出される熱・CO <sub>2</sub> を隣接する菜園で、トマトの生育に利用。
2021 年	国内 3 工場において太陽光発電パネルを設置。 ※小坂井工場(愛知県)、茨城工場(茨城県)、富士見工場(長野県)
2022 年	「トマトケチャップ」を生産する小坂井工場において、購入電力を再生可能エネルギー電源に由来する電力に切り替え。太陽光パネルによる自家発電と組み合わせ、当工場の使用電力をすべて再生可能エネルギー電源に由来する電力に。
2022 年	2030 年に向けた温室効果ガス排出量の削減目標を策定し、SBT(Science Based Targets)イニシアチブの認証を取得。

(本件のお問い合わせ先)

カゴメ株式会社 経営企画室 広報グループ 北川、堀江 TEL:03-5623-8503